

# 吹田市教育研究大会報告

平成22年10月12日

吹田市教育研究大会  
事務局発行

去る8月30日（月）第4回目の吹田市教育研究大会を「学校がすき・家庭がすき・地域がすき～地域に根ざした質の高い公教育の創造～」を大会テーマとして、メイシアター及び商工会議所にて開催いたしました。午後からの半日開催でしたが、全体会に引き続いて7つの分科会を行うとともに、8本の展示報告がありました。吹田市内幼稚園、小・中学校の教職員、保護者延べ1,456名の参加をいただきました。各分科会や展示報告では、各学校園での取組の発信もたくさんあり、すばらしい吹田市内の学校園の実践を共有化することができました。

多数の皆さんの参加、実践報告、そして会のスムーズな進行にあたってご協力いただき、ありがとうございました。今年度は、保護者の方の参加が多かったこと、多くの現場の教職員の方が当日スタッフとして大会の運営に参画いただいたことが特筆されます。また、アンケートによるご意見や感想もたくさんいただき、次年度以降の企画に生かしていきたいと思っております。研究大会の皆さんからのアンケート集約の一部と、全体会（基調講演）・各分科会等の様子を紹介します。

## （◆参加者感想）

## 参加者アンケートより

全体会／分科会	会場	参加人数	アンケート回収率（%）	アンケート集計（%）			
				とても良かった	良かった	余り良くなかった	良くなかった
全体会（基調講演）	大ホール 一部中ホール	1456	38.0	19.4	71.5	7.5	1.7
A. 特別支援教育※	大ホール	498	41.8	40.1	59.9	0	0
		47	70.2	64.7	35.3	0	0
B. 中学校授業づくり	中ホール	209	31.6	21.4	71.4	5.4	1.8
C. 小学校授業改革	集会室	185	37.3	24.6	73.9	1.4	0
D. ICT活用	レゾナンスホール	171	32.7	60.0	40.0	0	0
E. 授業活性化	展示室	102	85.3	29.8	69.0	0	1.2
F. 幼小連携	小ホール	117	48.7	71.7	28.3	0	0
G. 学校パワーアップ	商工会議所	102	34.3	50.0	50.0	0	0
分科会全体		1384	41.6	40.3	58.6	0.7	0.4

※上段は教職員、下段は保護者

# 全体会 基調講演 「教職員力を高め、魅力ある学校・園を創る！！」

## 国立教育政策研究所総括研究官 千々布敏弥先生

子どもを高めるためには、教育力の高い「効果のある学校」が目指す姿であり、効果の高い学校を実現する戦略のうち、教師にとって最も有効感が高く、成功する確率の高い戦略は、「授業研究・校内研究」である、ことなどについてのお話をいただきました。そして、授業研究の3つのポイントである『授業規律の在り方』『単元構成の在り方』『事後の協議の在り方』について、具体的な授業のビデオを通してご講演いただきました。



◆授業研究において、コミュニケーションを活性化するワークショップ方式は具体的でわかりやすいと思った。／授業規律をしっかりすることにより、今後の授業の進み方や生徒の成長に関係すると感じた。／普段の授業での考え方・進め方が違った視点で考えることができた。また、研究授業や研究協議のあり方などの話も興味深かった。／日本の授業研究が海外で高く評価されていることを初めて知った。

# A分科会 特別支援教育 「発達障がいに対する支援と方策」

〔報告〕①「形の描画検査について」 ②「かな単語聴写検査について」

保護者の了解を必要とせず、学級の児童全体に検査ができ、学習課題とも関連している、等の長所がある「簡便な個別検査」のうち、「形の描画検査」と「かな単語聴写検査」についての報告でした。

〔講演〕「大人の発達障がいの現状と支援～発達障がいのある当事者からのメッセージ～」

大阪府若者サポートステーション ピアワークサポーター 広野ゆい氏 【保護者啓発研修と兼ねる】

ADHDの当事者とおっしゃる広野さんから、「自分はダメなところがたくさんある。」と思っていたが、自助グループを始めて「私だけじゃないんだ。ダメだけいいところもある。」と思うようになった、とのお話をうかがいました。そして、今最も必要なことは、一生涯を通じての支援体制を整えることである、と訴えられていました。



◆子どものつまずきを把握して早い段階で支援するとこんなにつまずきが取れるものなのかと思った。／当事者の気持ちをもっと伝えていただき、世の中に知ってもらふ必要があると思う。／自分の保育を振り返り、「しんどい」と発信している子どもがいるのではないかと考えさせられた。

# B分科会 中学校授業改革 「学習意欲を高めるための授業づくり

## スーパーティチャーに学ぶ中学校の授業づくり」東京学芸大学世田谷中学校教諭 笠井正信先生

①〔模擬授業〕具体的に「授業のしかけを」どうつくるか

実際に16名の先生方に壇上にあがっていただき、話し合い活動を行いました。シナリオを作り、「知恵袋」などの役割を与えたり、内容の観点の整理をすることで、具体的なしかけを盛り込むアイデア、また話し合いを周りで見ること、傍観者を積極的な観衆に変えるという新しい発想も提案されました。

②〔パネルトーク〕「今、改めて中学校の授業の工夫を考える」

授業規律を確立するための様々な工夫を発表してもらいました。入学から卒業までを見通し、教材の精選、集中力を持続させる方法、指導案をつくり積極的に授業を公開していくことなどの実践報告もしていただきました。

③〔講演〕「評価を生かした指導により学習意欲を高める」

学習意欲を高める授業づくりのための提案として、学ぶことの価値発見・価値創造を学び手が持つこと。学ぶ意欲は「わかる・できる」という実感の積み重ねにより高まる。評価はランキングではなく、子どもの学びを見据える評価でなくてはならないことなどを示唆いただきました。

◆従来の一方通行の授業ではなく、グループで教えあう、話し合うなどを取り入れた授業をすることが大切だと思う。／改めて子どもが中心であるということを肝に銘じたい。／パネルディスカッションでは実践に役立つヒントをたくさんいただけた。



## C分科会 小学校授業改革

「各部の活動報告から明日の授業へ」

- ① 学研国語部 “府国研三島大会の吹田市授業者の報告”
- ② 学研家庭科部 “わくわく家庭科やってみたい♪生かしてみたい♪”
- ③ 学研音楽部 “ひとりひとりのよろこびが全体に生きる音楽学習”
- ④ 学研算数部 “算数的活動を通して、活用力を育てる指導”
- ⑤ 学研社会科部 “誰でも使える!! 社会科ツール”
- ⑥ 学研体育部 “体づくり運動のすすめ”



◆それぞれの学研でどのような事を研究しているのかとてもよくわかった。／すぐに実践できそうな工夫・方法を仕入れることができた。／各教科の特徴・授業の工夫が見られてよかった。／授業の流れやアイデアを見せていただき2学期の参考になった。／具体的な内容がとてもわかりやすく伝わってきた。／明日から使える学習のネタがあった。／少し工夫すれば幼稚園でもできるかなと思うものもあり、幼小の学びの連続性について勉強になった。／各教科の若者が頑張っている姿が好ましかった。吹田の教育の将来に希望が持てた。

## D分科会 ICT活用 「ICTを活用した授業づくり」～『よりわかる』を子どもたちへ～

横浜国立大学准教授 野中陽一先生

- ① [実践報告]「ICTを活用した授業づくり」 情報教育・ICT活用研究グループ  
(1)「中学校理科」における実践報告 (2)「小学校社会科」における実践報告
- ② [ミニ発表]市内小中学校での取組



- (1) 小学校の取組 ①～算数少数人数指導での活用～  
②～PCとPJパソコン プレジカを活用した4年国語の授業～
- (3) 中学校の取組 ①美術科～書画カメラを利用した授業実践～ ②数学科～電子黒板を活用した授業実践～
- ③ [講演]「授業改善とICT活用」～だれにでもできるICTを活用した授業～ 野中陽一准教授

世界の学校のICT環境や日本の教室環境の現状から見て、日常的に手間なく使用できる環境整備が必要であり、すべての先生が各教科で日常的に行うことが重要であること、そして、それが情報活用能力(情報モラル)の育成、学力向上につながるというお話をうかがいました。

◆今まではICT活用の授業が遠いもの感じていたところがまだまだあったが、身近に感じるようになり、また積極的に活用することの大切さがわかった。／世界のICT環境の普及状況を見て、驚いた。ICTを使えばいいのではなく、従来の授業にうまく組み込ませることが大切だと知り、とても勉強になった。／準備に時間がかかったり、使ったことがないからと避けて過ごしてきたが、実践されている先生方の話など聞いて、自分にできる範囲で少し頑張ってみてみたいと思った。

## E分科会 授業活性化 「教師一人ひとりの力を高め、学校力を高めるための授業研究会のあり方を考える」

関西大学文学部教授 山住勝広先生

- ① [報告]「校内授業研究の活性化により授業力向上を図る！」  
—学び・つながり・笑顔が生まれる授業研究とは— 授業活性化研究グループ
- ② [模擬授業研究会]一緒に体験しましょう！授業研究会—ビデオを活用した研究会—  
中学校1年生美術「『明日の神話』を味わおう」の授業ビデオを活用した授業研究の体験
- ③ [講演]「これからの学校における授業研究のあり方」



授業研究は、希望を語り合うことであり、協働の活動を授業の中に取り入れることで、一人ひとりの学力を向上させることができる。校種、教科を越えての授業研究は可能であり、中学校ブロックでの合同研修授業研修を！等のご講演をいただきました。

◆従来の研究授業や研究会と違い、活性化するために有効な手立てだと思った。／この分科会は、基調講演ともつながり、一人ひとりが力をつけていくためにはどうしたら…ということの示唆をいただいた。／授業研究会について小中の取組の中に、幼稚園の研究会の持ち方や保育活動のヒントを得ることができた。

## F分科会 幼小連携 「のびのび表現いきいき交流」

- ①「いっぱい遊ぼう いっぱい話そう」～伝えよう 気持ち、感じよう 思い、つなげよう 心～ 東山田幼稚園
- ②「併設幼稚園のいいところ」～幼小連携の取組について～ 豊津第一小学校
- ③「表現しよう！ 五感をフルにつかって」（ワークショップ） 小学研児童文化部
- ④「作ってみよう！ やってみよう！」～パネルシアター「はらぺこあおむし」～ 小学研図書館部

◆・幼稚園での取組、子どもに気づきを与えるポイントなど、新たな視点を学んだ。／幼小連携の大切さや交流の工夫がよくわかった。小学校からの視点から見ることができ勉強になった。／ワークショップの活動を中学のHRなどで仲間づくりで活用したい。／どの発表も具体的でわかりやすく、とても楽しい分科会であった。



## G分科会 学校パワーアップ ～いきいきした学校をめざして～

- ① 学校組織マネジメント研究グループから 「いきいき学校大作戦！ ～こんな学校組織の見直しはいかが？～」 校務分掌の見直しや、情報のデータベース化による教職員が協働した体制づくりで、学校が元気に活性化していくための提案が報告されました。
- ② 中学校学研道徳部から 「生徒も先生も心が元気になる“感謝”の授業 ー幸せに気づかないのは MOTTAINAIー」 「MOTTAINAI」をテーマに、読み物教材やさだまささんの歌など魅力的な教材を活用し、子どもの心の変容をひきだす授業の在り方の報告でした。
- ③ 千里たけみ小学校から 「 Smile Communication ～伝えよう自分の気持ち 受け止めよう友だちの心～ 」 昨年度の研究活動の報告を兼ねて、担任が主体となって取り組む英語活動について、取組内容の報告がありました。来年から必修になる小学校英語活動を指導する際の参考となりました。
- ④ 元気アップリーダーから「オーストラリアから吹田へ 届け Energy！」 今年8月、オーストラリアを訪問した7名の元気アップリーダーからの7つのテーマの報告でした。学校や公共施設の様子や、楽しい出会いを、寸劇仕立てで報告され、会場の参加者全員が元気の種をもらいました。

◆事務職の方、中学校の先生たちの元気な話が聞けてよかった。／道徳の発表は、心がこもっていて、先生の熱意、人柄が伝わってきてとてもよかった。／いろいろな立場の人から、違った内容の発表が聞け、とても楽しめた。そして、元気をもらい、2学期も頑張ろうと思った。



## 展示報告

○小学校学研理科部、小学校学研図工部、小学校学研支援教育部、中学校学研支援教育部、市立幼稚園教育研究会、教育委員会教育政策室、教育委員会指導課、JICA大阪よりの報告がありました。限られた時間の中で、参加者が熱心に参観していました。



◆幼稚園からのいろいろな作品があつて、ほほえましく楽しかった。／教材が展示されており、参考になった。／宿泊学習の様子など、支援学級の子もたちの生き生きとした活動を見ることができてうれしかった。

★詳細は、後日報告集を各学校・園あてに(各学年に1冊程度)送付いたしますので、ぜひご覧ください。